

平成26年度 プロジェクト研究報告会

受容・共生・地域学



日 時

2015年2月14日(土)
13:00~17:00(予定)

本土と離島
をつなぐ
ダブル会場

鹿児島大学
郡元キャンパス

総合教育研究棟(文系)
3階LL教室
市電「工学部前」徒歩5分

奄 美

鹿児島大学
奄美サテライト教室
奄美市名瀬公民館 金久分館3階

お問い合わせ

地域政策科学専攻事務室

Tel·Fax:099-285-3573

E-mail:lehdoc@leh.kagoshima-u.ac.jp

予約不要
入場無料

図書館前門

中央図書館

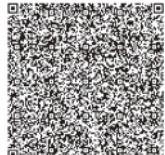
大学通り(市道)

法文棟1号館

共通教育棟2号館

総合教育
研究棟

1号館
共通教育
棟





報告概要

(順不同)

報告4 (ギュレメトヴ・ニコライ) 若者と異文化共生 —鹿児島大学のケース・スタディー—

本研究は、鹿児島大学に在籍する学生（日本人及び留学生）を対象にアンケートやインタビューを行い、「教育が異文化の受容に与える影響」を明らかにする。学生たちがこれまでどのように異文化を受け入れてきたのか。現在の環境は、異文化に対するイメージの形成や固定観念にどのような影響を与え、変化をもたらしているのかを検討する。

報告1 (丁 茹) 中国における日本SF作品出版状況の比較

本研究では、中国における日本のSF小説の翻訳及び出版状況について、1976年から現在までの資料と統計を基に、翻訳された作品数、作品の訳者人数、翻訳時期、受容対象などについて分析する。そのうえで、星新一作品の受容状況と比較し、星新一作品の中国における受容の特徴について深く考察を加える。

報告5 (橋口 正樹) 幕末薩摩藩の对外関係に関する一考察 —薩英友好関係の構築と発展—

慶応2年（1866）、英國公使ハリー・パークス一行が鹿児島を訪れた。この来鹿は、生麦事件から薩英戦争を経て、薩英友好の機運が高まる中での象徴的な出来事とされている。本報告では、当時鹿児島と関わりのあったイギリス人の動向に着目しながら、薩摩藩とイギリスが友好関係を構築し、相互交流を重ねる中で関係を発展・深化させていく過程を考察する。

報告2 (張 秋菊) 都市の商業立地パターンと地域構造 —中国重慶市区を事例として—

商業機能は都市の基本的な経済機能であり、商業立地は都市システムの基盤となる。商業立地パターンは地域の歴史的、地理的、社会的要因により形成され、経済発展や人口移動等の要素の変化に対応して変容しつつある。本研究は中国重慶市区の人口分布、産業構成、都市計画等を踏まえて当該地域の商業立地の現状、歴史的変遷および地域構造を考察する。

報告6 (馬場 武) サステナビリティを実現する地方企業 —連続型イノベーションによる企業経営—

本報告では、鹿児島県と長野県の二つの企業の事例を取り上げる。両者は、地域に根差しつつも国際的に優位なビジネスを展開している点において共通している。これら企業の経営戦略や理念を比較検討することで、地域を超え、国際社会という環境で、どのように他者と関係性を築き、受容そして共生してきたのかを明らかにしたい。

報告3 (中村 敬子) 奄美におけるプロテスタントの受容と現状 —喜界島の事例をもとに—

地域社会と共に生きるキリスト教、多様性に富むプロテスタント教会の過去、現在、将来を展望する。喜界島は主島と言われる奄美大島に近く、カトリック同様に宣教は歴史の荒波を乗り越えてきた。離島は過疎化や高齢化に直面しながらも独特の歴史や文化を持つ。事例をもとにプロテスタントと喜界島および奄美に照射し、地域の受容と教会形成過程や諸活動、現状と今後の可能性を考察する。

報告7 (松崎 大嗣) 律令国家形成期における蒸し調理技術の境界

本研究の目的は、土器の使用痕分析という視点から、九州南部における蒸し調理技術の受容形態を考古学的に解明することである。検討の結果、新しい調理技術の受容には地域差・時期差があることが明らかとなった。本報告では、蒸し調理技術の境界を明らかにし、当時の人々の生活を復元したい。